



大津波のあとに

気仙医師会

会長 滝田 有

3.11大津波に際して大船渡市、陸前高田市あわせて二千人余の犠牲者があり県内最大の被害を受けました。わが医師会も会長、副会長、理事の3名が帰らぬ人となってしまいました。このような気仙医師会に対して物心ともに支援していただいた諸兄には感謝の意を表します。また、現在もなおJMAT岩手として高田診療所へご支援を頂いている内陸の先生方には頭が下がります。ありがとうございます。

3.11当日は私自身も一旦は津波にのみ込まれ死を覚悟しましたが、引き潮のときに自力で脱出し九死に一生を得ました。復興が始まった昨年春以降は、総務として会長代行を助けてきたつもりです。会長職を拝命するにあたり目標とするのは、枯渇しつつある医療資源を効率的に使うことです。発災前から気仙地区の医療資源は、潤沢とは言えませんでした。人口減少に伴って20~30年先に起こるであろうと予測されていた医療資源の枯渇が、大津波によって前倒しに目の前に現れてしまったのです。

気仙2市1町は国の「環境未来都市」に選ばれて、効率的なコンパクトシティを目指します。その大事な柱の医療・保健・介護分野でも協議会が先日立ち上がりました。まず足元の医師会の会員の融和を促します。和気藹々とした雰囲気醸し出しながら、規制緩和の要件を洗い出し協働していきたいと思えます。連携をIT化するのは重要ですし、在宅医療も避けて通れない問題です。一人に過重な負担がかからないように、そして倒れる医師が出ないように、また医療職同士、さらに介護関係者等と効率的に連携を取り合ったシステムを作るべきだと考えます。皆様のご指導ご協力をよろしく願います。